

# スイングリフター 取扱説明書 ML-712

この取扱説明書は、ご使用いただくお客様に必ずお渡しください。

このたびは、昇降ラックをお買い上げいただき、まことにありがとうございます。  
ご使用前に、この説明書をお読みのうえ、正しくご使用ください。お読みになった後も、いつもお手元に置いて  
ご使用ください。

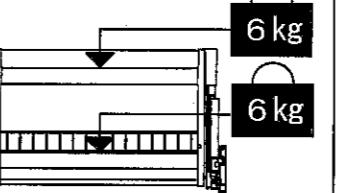
## 表示について

	警告 誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
	注意 誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う危険が想定される場合および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。
	禁止の行為であることを告げるものです。図の中の近くに具体的な禁止内容が表示されています。
	強制（必ず実行してほしい）したり指示する内容を告げるものです。図の中や近くに具体的な行為が表示されています。

## ⚠️ 警 告

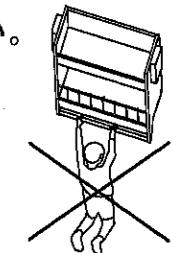
- ① 12 kg以上は、入れない。

本体の変形や落下によりけがの原因になります。  
本体の下降スピードが増して、けがの原因になります。



- ② ハンドルに、ぶらさがらない。

本体が落下して、けがの原因になります。

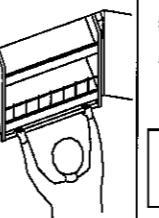


- ③ 作動中グラツキやガタツキ等の異常を感じたときは、そのまま使用しない。

## ⚠️ 注 意

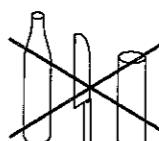
- ① 両手でハンドルを持ってゆっくり出し入れする。

引戸又は扉を全開の状態で操作してください。  
途中でハンドルから手を離さないでください。



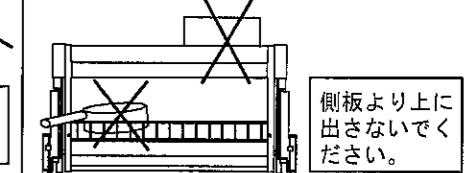
- ② 不安定なものや鋭利な物は入れない。

物の落下により、けがの原因になります。



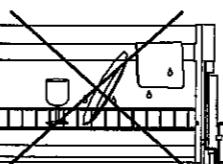
- ③ 収納物は本体から、はみ出さない。

入れた物が落下したり、挟まるおそれがあります。



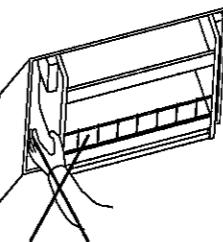
- ④ ぬれた物・割れやすい物を入れない。

破損や落下してけがの原因になります。  
錆の原因になります。



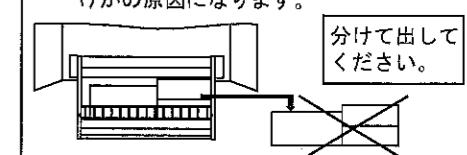
- ⑤ 側面機構部に手を入れない。

側面機構部に手を挟みけがの原因になります。



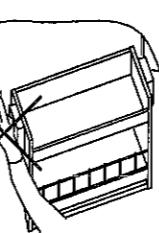
- ⑥ 一度に多くの収納物を出さない。

本体を下げた状態で一度に多くの収納物を出すと、本体が上昇してけがの原因になります。



- ⑦ 本体を下げた状態で操作力調整レバーを操作しない。

本体を吊戸棚内に納めた状態で、レバーを操作してください。  
本体を下げた状態で操作しても調整機能は、働きません。



- ⑧ 操作力の確認をする。

物を入れたとき降ろしたときには、操作力を確認してください。  
本体の昇降スピードが増して、けがの原因になります。

- ⑨ 本体を上げる前に落下防止ガードを元に戻す。

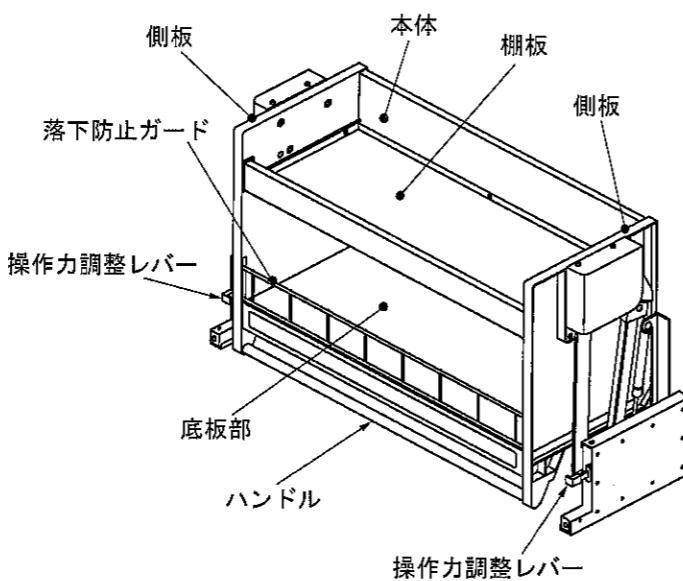
物の落下により、けがの原因になります。

## お願い

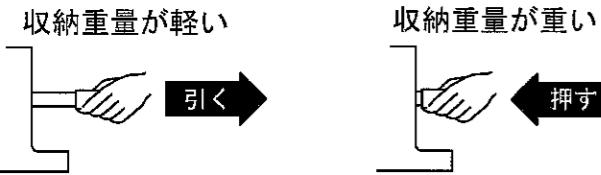
収納重量が、少ない状態で手を離すと本体が上昇するので、注意してください。  
収納重量が軽い設定なら手前で止まりますので、5kg以下でのご使用が便利です。

## ■各部の名称としくみ

ハンドル	本体を出し入れする時に握って操作します。
操作力調整レバー	収納量に合わせて操作力を調整するためのレバーです。
落下防止ガード	収納物の落下を防ぐための部品です。
棚板	物を収納するスペースです。
底板部	物を収納するスペースです。
本体	昇降する部分全体です。



## ■操作力調整レバーの使い方



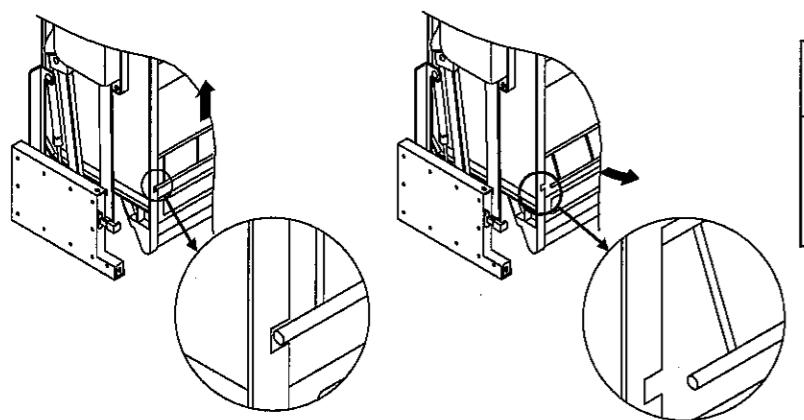
本体を吊戸棚に納めた状態で、操作力調整レバーを操作してください。  
本体を下げた状態で、操作力調整レバーを操作しないでください。

操作力調整レバー調整表

収納重量	調整レバー	
	右側	左側
軽い 0 ~ 5 kg	引く	引く
中間 5 ~ 9 kg	引く	押す
重い 9 ~ 12 kg	押す	引く
	押す	押す

## ■落下防止ガードの操作方法

1. 落下防止ガードを持ち上げる。
2. 落下防止ガードを溝から抜く。
3. 元に戻すには、逆の順番で行ってください。



## ■使い方

1. 引戸又は扉を完全に開けます。
  2. 操作力調整レバーで、操作力を調整します。
  3. ハンドルを両手で持って、ゆっくりと降ろします。
- 収納重量によっては、下で止まらず上がってしまうことがあります。その場合は、本体を上げて操作力調整レバーで、操作力を調整してください。
  - 大きな物を入れる場合は、落下防止ガードを操作すると入れやすくなります。
  - 棚板に物を入れる場合は、側板より上に出ないようにしてください。
4. 本体を上げるときは、ハンドルを両手で持ってゆっくりと押し上げ、最後まで押し込んでください。

本体を上げるとき、自動で上昇しません。  
必ずハンドルを両手で持って押し上げてください。

5. 引戸又は扉を閉じます。

## ■お手入れ方法

1. 本体が下で止まったことを確認してから、お手入れをしてください。  
収納物を出すと本体が、上昇することがありますので注意してください。
2. 日常のお手入れは布きんなどで、から拭きしてください。  
汚れが取れない場合は、中性洗剤を付けて拭いてください。  
その後、から拭きして水気を取ってください。

# スイングリフター 取扱説明書 ML-722

この取扱説明書は、ご使用いただくお客様に必ずお渡しください。

このたびは、昇降ラックをお買い上げいただき、まことにありがとうございます。

ご使用前に、この説明書をお読みのうえ、正しくご使用ください。お読みになった後も、いつもお手元に置いてご使用ください。

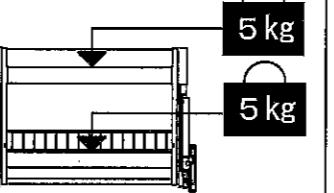
## 表示について

	警告 誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
	注意 誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う危険が想定される場合および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。
	禁止の行為であることを告げるものです。図の中の近くに具体的な禁止内容が表示されています。
	強制（必ず実行してほしい）したり指示する内容を告げるものです。図の中や近くに具体的な行為が表示されています。

## ⚠️ 警 告

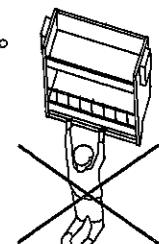
- ① 10kg以上は、入れない。

本体の変形や落下によりけがの原因になります。  
本体の下降スピードが増して、けがの原因になります。



- ① ハンドルに、ぶらさがらない。

本体が落下して、けがの原因になります。

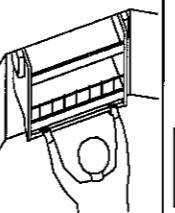


- ① 作動中グラツキやガタツキ等の異常を感じたときは、そのまま使用しない。

## ⚠️ 注 意

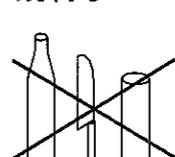
- ① 両手でハンドルを持ってゆっくり出し入れする。

引戸又は扉を全開の状態で操作してください。  
途中でハンドルから手を離さないでください。



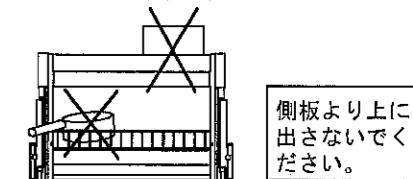
- ① 不安定なものや鋭利な物は入れない。

物の落下により、けがの原因になります。



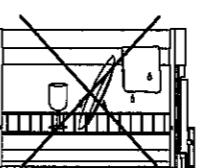
- ① 収納物は本体から、はみ出さない。

入れた物が落下したり、挟まるおそれがあります。



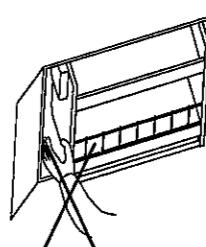
- ① ぬれた物・割れやすい物を入れない。

破損や落下してけがの原因になります。  
錆の原因になります。



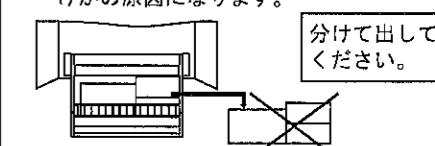
- ① 側面機構部に手を入れない。

側面機構部に手を挟みけがの原因になります。



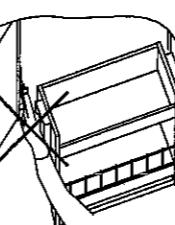
- ① 一度に多くの収納物を出さない。

本体を下げた状態で一度に多くの収納物を出すと、本体が上昇してけがの原因になります。



- ① 本体を下げた状態で操作力調整レバーを操作しない。

本体を吊戸棚内に納めた状態で、レバーを操作してください。  
本体を下げた状態で操作しても調整機能は、働きません。



- ① 操作力の確認をする。

物を入れたとき降ろしたときには、操作力を確認してください。  
本体の昇降スピードが増して、けがの原因になります。

- ① 本体を上げる前に落下防止ガードを元に戻す。

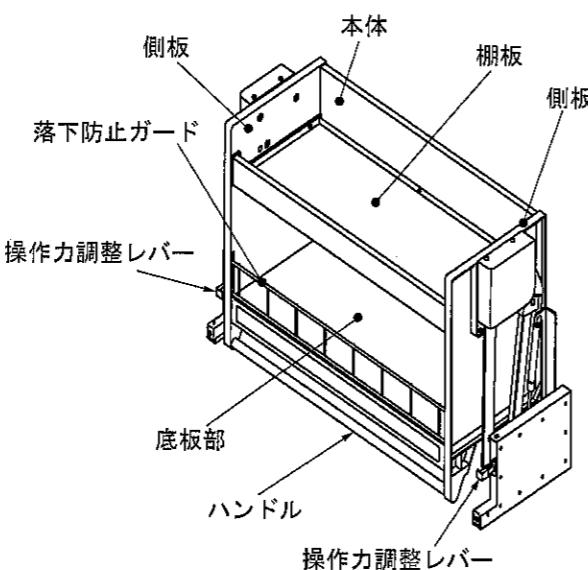
物の落下により、けがの原因になります。

## お願い

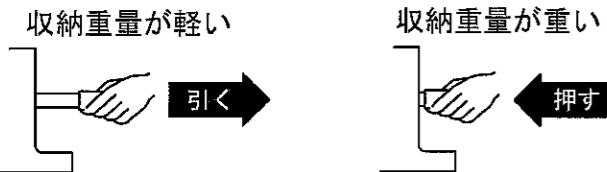
収納重量が、少ない状態で手を離すと本体が上昇するので、注意してください。  
収納重量が軽い設定なら手前で止まりますので、5kg以下でのご使用が便利です。

## ■各部の名称としくみ

ハンドル	本体を出し入れする時に握って操作します。
操作力調整レバー	収納量に合わせて操作力を調整するためのレバーです。
落下防止ガード	収納物の落下を防ぐための部品です。
棚板	物を収納するスペースです。
底板部	物を収納するスペースです。
本体	昇降する部分全体です。



## ■操作力調整レバーの使い方



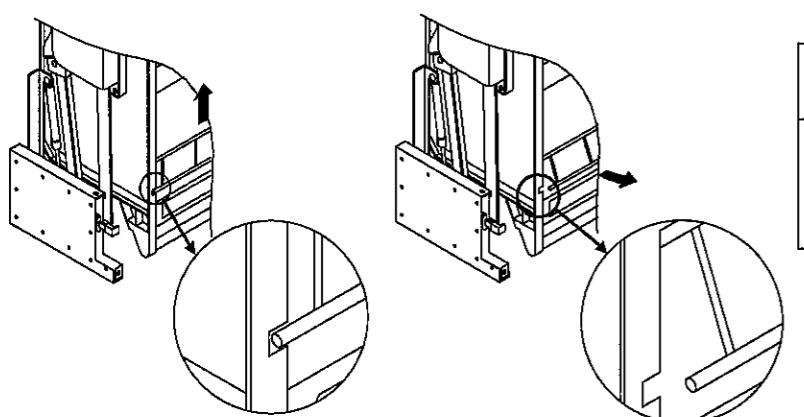
本体を吊戸棚に納めた状態で、操作力調整レバーを操作してください。  
本体を下げた状態で、操作力調整レバーを操作しないでください。

操作力調整レバー調整表

収納重量		調整レバー	
		右側	左側
軽い	0 ~ 5 kg	引く	引く
中間	5 ~ 9 kg	引く	押す
重い	9 ~ 10 kg	押す	引く

## ■落下防止ガードの操作方法

1. 落下防止ガードを持ち上げる。
2. 落下防止ガードを溝から抜く。
3. 元に戻すには、逆の順番で行ってください。



## ■使い方

1. 引戸又は扉を完全に開けます。
  2. 操作力調整レバーで、操作力を調整します。
  3. ハンドルを両手で持って、ゆっくりと降ろします。
- 収納重量によっては、下で止まらず上がってしまうことがあります。その場合は、本体を上げて操作力調整レバーで、操作力を調整してください。
- 大きな物を入れる場合は、落下防止ガードを操作すると入れやすくなります。
- 棚板に物を入れる場合は、側板より上に出ないようにしてください。
4. 本体を上げるときは、ハンドルを両手で持ってゆっくりと押し上げ、最後まで押し込んでください。

本体を上げるとき、自動で上昇しません。  
必ずハンドルを両手で持って押し上げてください。

5. 引戸又は扉を閉じます。

## ■お手入れ方法

1. 本体が下で止まったことを確認してから、お手入れをしてください。  
収納物を出すと本体が、上昇することがありますので注意してください。
2. 日常のお手入れは布きなどで、から拭きしてください。  
汚れが取れない場合は、中性洗剤を付けて拭いてください。  
その後、から拭きして水気を取ってください。

# スイングリフター 取扱説明書 ML-732

この取扱説明書は、ご使用いただくお客様に必ずお渡しください。

このたびは、昇降ラックをお買い上げいただき、まことにありがとうございます。

ご使用前に、この説明書をお読みのうえ、正しくご使用ください。お読みになった後も、いつもお手元に置いてご使用ください。

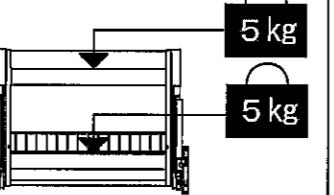
## 表示について

	警告 誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
	注意 誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う危険が想定される場合および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。
	禁止の行為であることを告げるものです。図の中の近くに具体的な禁止内容が表示されています。
	強制（必ず実行してほしい）したり指示する内容を告げるものです。図の中や近くに具体的な行為が表示されています。

## ！警告

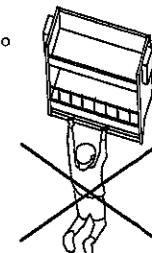
- ① 10kg以上は、入れない。

本体の変形や落下によりけがの原因になります。  
本体の下降スピードが増して、けがの原因になります。



- ② ハンドルに、ぶらさがらない。

本体が落下して、けがの原因になります。

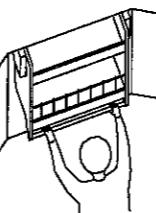


- ③ 作動中グラツキやガタツキ等の異常を感じたときは、そのまま使用しない。

## ！注意

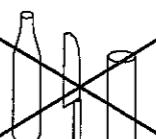
- ① 両手でハンドルを持ってゆっくり出し入れする。

引戸又は扉を全開の状態で操作してください。  
途中でハンドルから手を離さないでください。



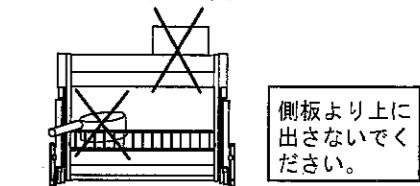
- ② 不安定なものや鋭利な物は入れない。

物の落下により、けがの原因になります。



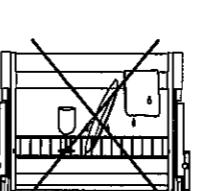
- ③ 収納物は本体から、はみ出さない。

入れた物が落下したり、挟まるおそれがあります。



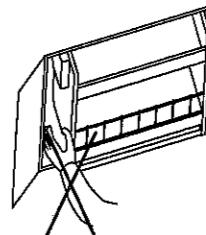
- ④ ぬれた物・割れやすい物を入れない。

破損や落下してけがの原因になります。  
錆の原因になります。



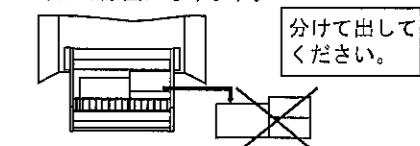
- ⑤ 側面機構部に手を入れない。

側面機構部に手を挟みけがの原因になります。



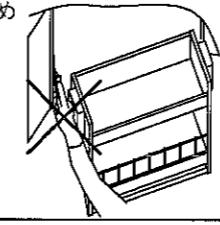
- ⑥ 一度に多くの収納物を出さない。

本体を下げた状態で一度に多くの収納物を出すと、本体が上昇してけがの原因になります。



- ⑦ 本体を下げた状態で操作力調整レバーを操作しない。

本体を吊戸棚内に納めた状態で、レバーを操作してください。  
本体を下げた状態で操作しても調整機能は、働きません。



- ⑧ 操作力の確認をする。

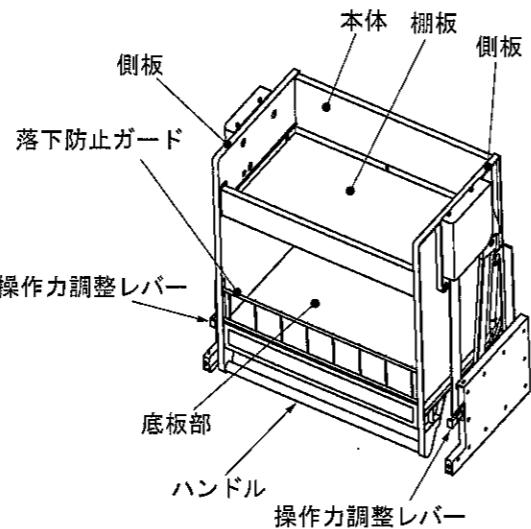
物を入れたとき降ろしたときには、操作力を確認してください。  
本体の昇降スピードが増して、けがの原因になります。

## お願い

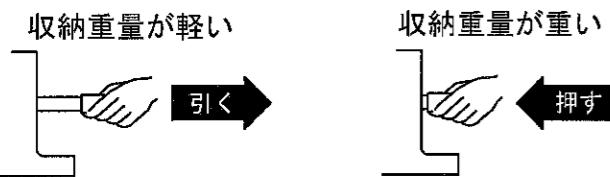
収納重量が、少ない状態で手を離すと本体が上昇するので、注意してください。  
収納重量が軽い設定なら手前で止まりますので、5kg以下のご使用が便利です。

## ■各部の名称としくみ

ハンドル	本体を出し入れする時に握って操作します。
操作力調整レバー	収納量に合わせて操作力を調整するためのレバーです。
落下防止ガード	収納物の落下を防ぐための部品です。
棚板	物を収納するスペースです。
底板部	物を収納するスペースです。
本体	昇降する部分全体です。



## ■操作力調整レバーの使い方



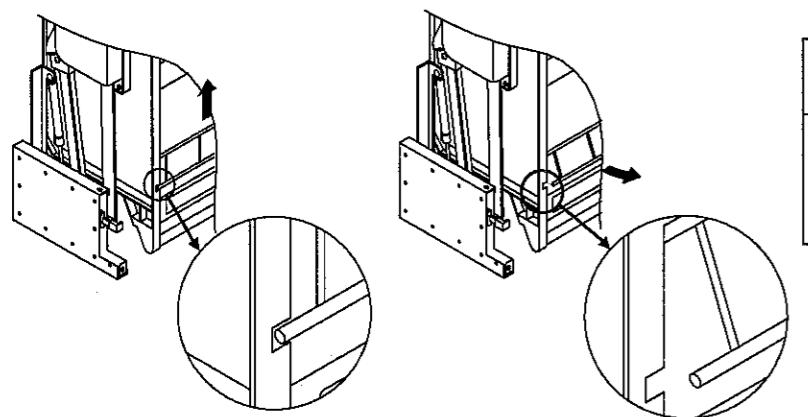
本体を吊戸棚に納めた状態で、操作力調整レバーを操作してください。  
本体を下げた状態で、操作力調整レバーを操作しないでください。

操作力調整レバー調整表

収納重量		調整レバー	
		右側	左側
軽い	0 ~ 5 kg	引く	引く
中間	5 ~ 9 kg	引く	押す
重い	9 ~ 10 kg	押す	引く
			押す

## ■落下防止ガードの操作方法

1. 落下防止ガードを持ち上げる。
2. 落下防止ガードを溝から抜く。
3. 元に戻すには、逆の順番で行ってください。



## ■使い方

1. 引戸又は扉を完全に開けます。
2. 操作力調整レバーで、操作力を調整します。
3. ハンドルを両手で持って、ゆっくりと降ろします。
  - 収納重量によっては、下で止まらず上がってしまうことがあります。その場合は、本体を上げて操作力調整レバーで、操作力を調整してください。
  - 大きな物を入れる場合は、落下防止ガードを操作すると入れやすくなります。
  - 棚板に物を入れる場合は、側板より上に出ないようにしてください。
4. 本体を上げるときは、ハンドルを両手で持ってゆっくりと押し上げ、最後まで押し込んでください。

本体を上げるとき、自動で上昇しません。  
必ずハンドルを両手で持って押し上げてください。

5. 引戸又は扉を閉じます。

## ■お手入れ方法

1. 本体が下で止まったことを確認してから、お手入れをしてください。  
収納物を出すと本体が、上昇することがありますので注意してください。
2. 日常のお手入れは布きんなどで、から拭きしてください。  
汚れが取れない場合は、中性洗剤を付けて拭いてください。  
その後、から拭きして水気を取ってください。



### 注意

本体を操作する前に必ず落下防止ガードを元に戻す。

# スイングリフター 取付設置説明書 ML-712・ML-722・ML-732

このたびは、スイングリフターをお買い上げいただき、まことにありがとうございます。  
取付けの前に、この説明書をお読みのうえ、正しく取付けてください。

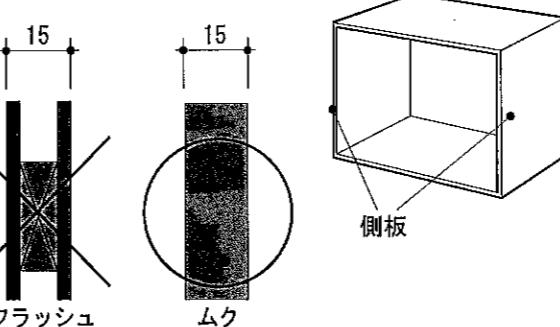
## 表示について

	警告 誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
	注意 誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う危険が想定される場合および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。
	禁止の行為であることを告げるものです。図の中の近くに具体的な禁止内容が表示されています。
	強制（必ず実行してほしい）したり指示する内容を告げるものです。図の中や近くに具体的な行為が表示されています。

## △警 告

### 吊戸棚の側板に芯材があるか確認する。

スイングリフターの落下及び、吊戸棚が破損してけがの原因になります。

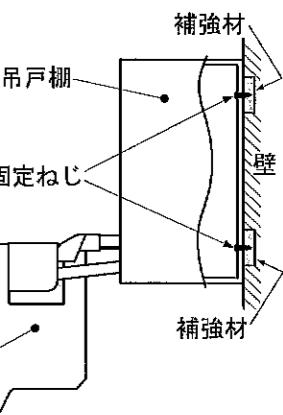


### 吊戸棚の壁面固定強度の確認をする。

吊戸棚が、落下してけがの原因になります。

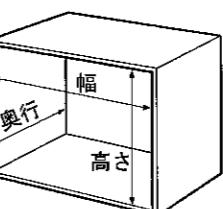
収納物を入れて操作すると、吊戸棚に力が加わりますので、それに耐えられるように吊戸棚の固定ねじなどを増設してください。

50kg以上耐えられるようにしてください。



### 吊戸棚の内寸法を確認する。

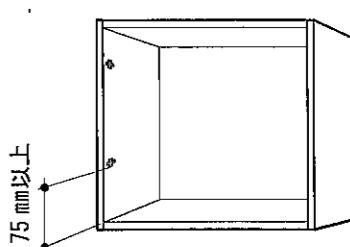
下記寸法表以外の吊戸棚では、スイングリフターの取付けができません。



吊戸棚寸法 [mm]		
機種番号	幅	奥行
ML-712	870	
ML-722	720	330 以上
ML-732	570	560 以上

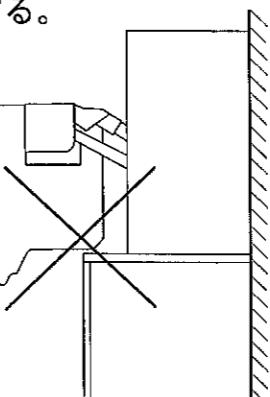
### 吊戸棚の蝶番位置を確認する。

下記寸法以外の吊戸棚では、スイングリフターの取付けができません。



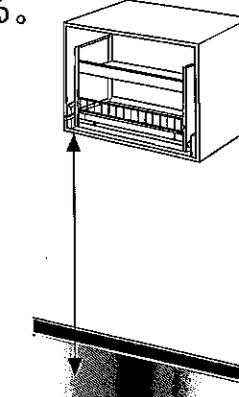
### 設置位置の確認をする。

スイングリフターの下部にキャビネットなどがある場合は、スイングリフターが当たり作動できなくなることがあります。



### 設置位置の確認をする。

スイングリフターのハンドルに手が届かない位置に設置しないでください。

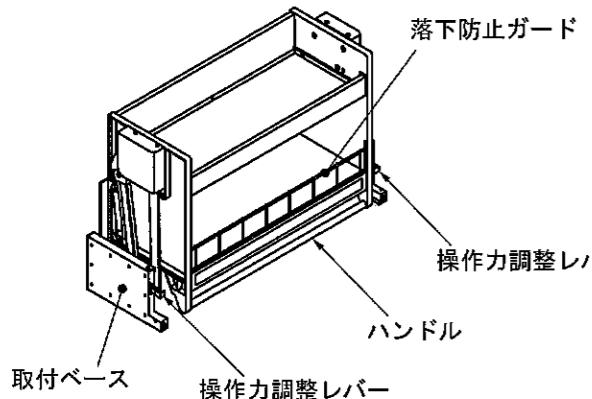


## 【同梱部品】

●同梱部品の確認をしてください。

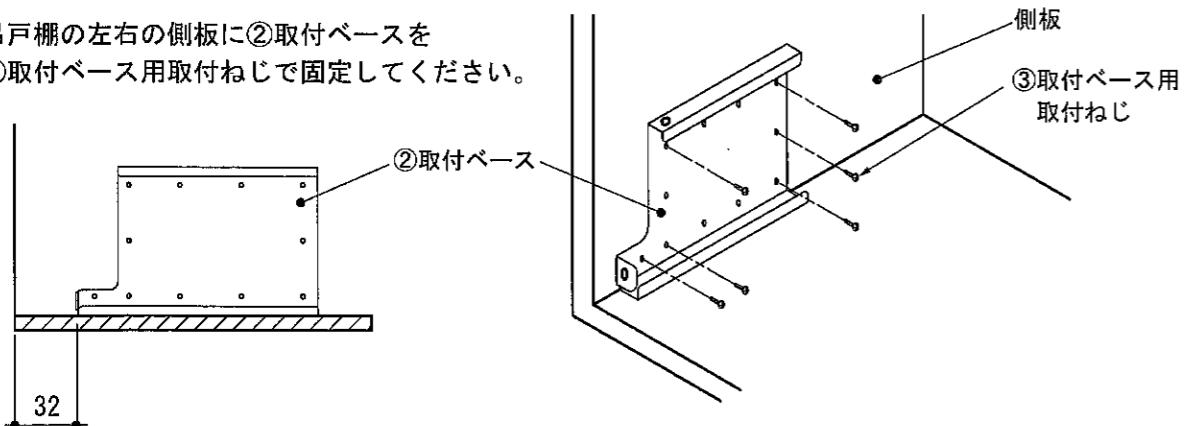
① 収納部	② 取付ベース	③ 取付ベース用取付ねじ	④ 収納部用取付ねじ	⑤ 取扱説明書	⑥ 取付設置説明書
1ヶ	2枚	12本	4本	1部	1部

## 【各部の名称】



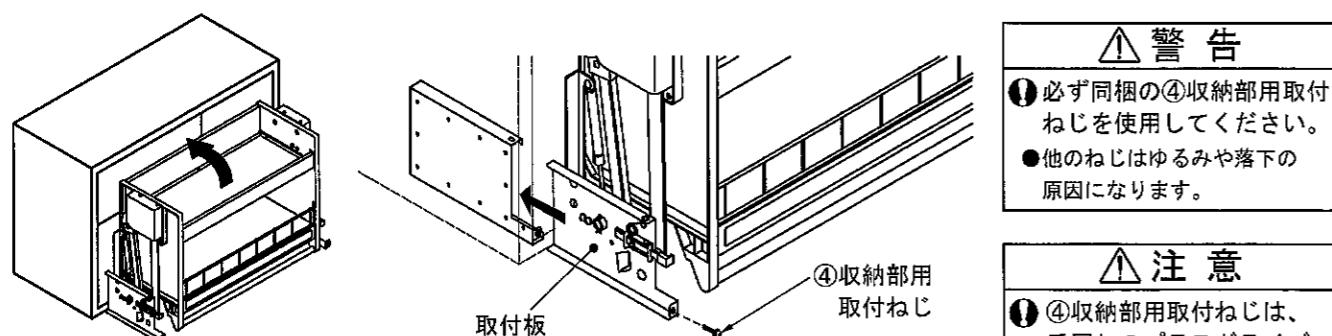
## 【取付方法】

- 吊戸棚の左右の側板に②取付ベースを  
③取付ベース用取付ねじで固定してください。



- ①収納部を吊戸棚に取付けます。

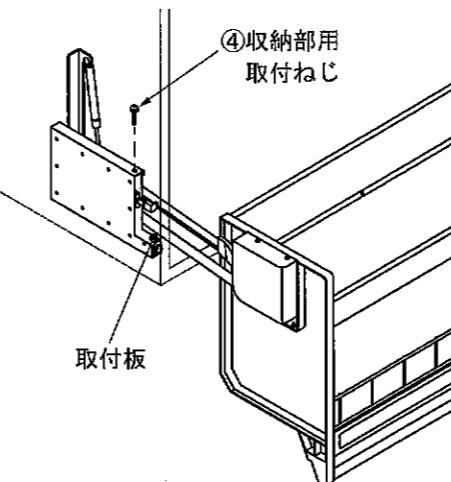
取付板を吊戸棚に固定した②取付ベースに差し込み、前面部を④収納部用取付ねじで固定してください。



※②取付ベースに入る際、塗装面が削れる恐れがありますので、  
取付板をキャビネットの側板と平行に差し込んでください。

※①収納部に④収納部用取付ねじを固定する際、取付板を吊戸棚の側板に  
に寄せるようにすると、取付穴に④収納部用取付ねじが入りやすくなります。

操作力調整レバーが左右とも引いた状態にあることを確認し、①収納部を一番下まで下げ、取付板上面部を  
④収納部用取付ねじで固定してください。(左右各1ヶ所)



### △警告

- ④収納部用取付ねじは必ず4本(前面部2本、上面部2本)を確実に固定してください。
- ねじのゆるみやはずれがあるとユニットが落下し、けがをするおそれがあります。

### △注意

- ④収納部用取付ねじは、手回しのプラスドライバーで固定してください。
- 電動ドライバーの使用で、ねじを斜めに挿入するとねじが効かなくなるおそれがあります。

## 【確認と試操作】

- 扉を完全に開きます。
- 両側の操作力調整レバーが引かれた状態になっているか確認してください。
- ハンドルを両手で持ち、①収納部をゆっくり下降させます。このとき以下の項目を確認してください。
  - スムーズに下端まで降下すること。
  - 下端まで降下させたとき①収納部が下端で保持されていること。
  - 異音などなきこと。
- 吊戸棚用の固定ねじが4本固定されていることをもう一度確認してください。
- ①収納部を上昇させた後に扉を完全に閉めます。

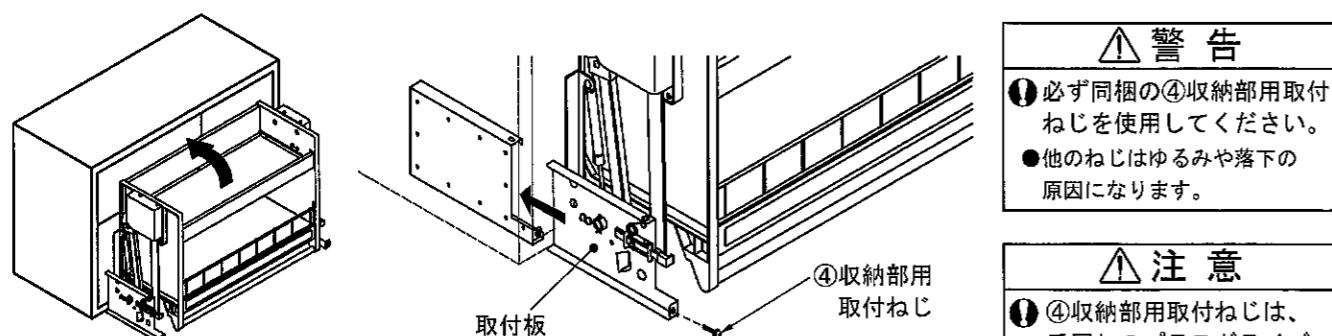
## 【取付方法】

- 吊戸棚の左右の側板に②取付ベースを  
③取付ベース用取付ねじで固定してください。



- ①収納部を吊戸棚に取付けます。

取付板を吊戸棚に固定した②取付ベースに差し込み、前面部を④収納部用取付ねじで固定してください。



※②取付ベースに入る際、塗装面が削れる恐れがありますので、  
取付板をキャビネットの側板と平行に差し込んでください。

※①収納部に④収納部用取付ねじを固定する際、取付板を吊戸棚の側板に  
に寄せるようにすると、取付穴に④収納部用取付ねじが入りやすくなります。

### △警告

- 必ず同梱の④収納部用取付ねじを使用してください。
- 他のねじはゆるみや落下の原因になります。

### △注意

- ④収納部用取付ねじは、  
手回しのプラスドライバーで固定してください。
- 電動ドライバーの使用で、  
ねじを斜めに挿入するとねじ  
が効かなくなるおそれがあります。